

## 2004 年度 委員会活動成果報告

(2005 年 3 月 17 日作成)

委員会名	火災安全設計小委員会	主 査 名：萩原一郎
所属本委員会 (所属運営委員会)	防火委員会	委員長名：室崎益輝
設 置 期 間	2001 年 4 月 ~ 2005 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画	<p>建築基準法が改正され、防火規定の一部に性能基準が導入された。火災安全を性能で語ることが始められた訳であるが、性能を適切に評価するツールが十分に用意されているとは言えない。火災安全設計を実務として行う上で必要な評価ツールの開発を通じて、火災安全設計の手法を広く社会に普及させる。</p> <p>2001 年度：「建築物の火災安全設計指針」の執筆。</p> <p>2002 年度：「建築物の火災安全設計指針」の出版及び講習会の開催。 「第 4 回性能的規定と火災安全設計法に関する国際会議」において、ケーススタディの論文発表。</p> <p>2003 年度：「建築物の火災安全設計指針」の改訂（計算例の追加）作業。 「第 5 回性能的規定と火災安全設計法に関する国際会議」に投稿するケーススタディの検討。</p> <p>2004 年度：ケーススタディの論文発表。</p>	
委員構成 (委員名(所属))	萩原 一郎 (国土技術政策総合研究所) 大宮 喜文 (東京理科大) 野竹 宏彰 (清水建設) 田中 哮義 (京都大) 辻本 誠 (名古屋大) 中道 明子 (日本建築総合試験所) 富松 大基 (日本設計) 原田 和典 (京都大学) 林 広明 (大成建設) 福井 潔 (日建設計) 北後 明彦 (神戸大学) 松山 賢 (東京理科大) 山口 純一 (大林組) 山田 常圭 (消防研究所)	
設置 WG (WG 名：目的)	<p>局所火源に対する耐火設計 WG： 開放的な空間の耐火設計に焦点を絞り、耐火設計用の局所火源および火災性状、部材温度の計算法のフレームワークを提案する。成果をシンポジウムで発表する。</p> <p>ケーススタディ WG： 第 5 回国際シンポジウムに投稿する火災安全設計のケーススタディ論文を作成する。</p>	
2004 年度予算	1 3 8 , 0 0 0 円	

項 目	自己評価
委員会活動状況 (開催日・参加人数)	2004.4.23 11 人。2004.5.12 10 人。 2004.6.10 8 人。 2004.7.30 10 人。 2004.9.22 11 人。 2004.11.1 9 人。 12.16 7 人。2005.3.18 ? 人。 以上 8 回
得られた成果	<p>(成果の具体的内容、成果の学術的・技術的・社会的価値、ホームページ等での公開の有無)</p> <p>2004 年 10 月に開催された第 5 回の「性能的規定と火災安全設計法に関する国際会議」にケーススタディの論文発表を行った。なお、概要については技術報告集にも投稿予定である。</p> <p>シンポジウム「局所火災に対する耐火設計を考える - 魅力ある耐火設計に向けて - 」を開催した (2005.2.24)</p> <p>委員会 HP アドレス： <a href="http://news-sv.aij.or.jp/bouka/aij_bk/2/aijkassweb/frame4.htm">http://news-sv.aij.or.jp/bouka/aij_bk/2/aijkassweb/frame4.htm</a></p>
目標の達成度	<p>(当初の活動計画と得られた成果との関係)</p> <p>ケーススタディの論文作成、シンポジウムの開催は予定通り達成できた。しかし、ケーススタディに多くの時間を費やしたため、当初予定していた「建築物の火災安全設計指針」の改訂、計算例の追加作業は未了である。</p>
その他評価すべき事項	